報道機関各位　　令和7年6月20日

第37回くにたち朝顔市
7月5日(土)・6日(日)　開催

夏の風物詩として定着し、市内外の方々に愛され続けている「くにたち朝顔市」を開催します。

37回目を迎える今夏も、市内の朝顔栽培農業者が「朝顔の里」で共同栽培した、ここでしか手に入らない“くにたち産の日本朝顔”（あんどん仕立て）を展示即売します。

朝顔に似つかわしい江戸風鈴の即売のほか、模擬店やキッチンカーも出店するので、ご家族連れなどでもお楽しみいただけるイベントです。

このことを広く周知したく、ぜひ、貴媒体での告知および取材・掲載方、お願いいたします。

概要

■日時　7月5日(土)・6日(日)各日午前6時30分～午後3時（売り切れ次第終了）

■場所　JR 国立駅南口大学通り緑地帯（一橋大学正門南側）

■販売品種　「富士」と「暁」の2種類

■価格　1鉢 2,000 円

■主催　第37回くにたち朝顔市実行委員会
※実行委員会に国立市も加わって運営しています。

▲くにたち産の日本朝顔。

■**参考**　くにたち朝顔市の歴史

〇朝顔市を始めた経緯

　当時、市内のイベントとしては、春のさくらフェスティバル、秋の天下市・市民まつりがあり、夏のイベントだけがぽっかりと空いて、寂しい状況でした。何か、この時期に大学通りをいかしたイベントはできないかと市民の有志が考えました。せっかくなら「子供たちにふるさとの思い出」を提供できたらとの想いも重なって、平成元年に第1回目の「くにたち朝顔市」が始まりました。

〇国立産朝顔への経緯

　当初は、入谷朝顔市でも仕入先としている江戸川区内の栽培者より朝顔を仕入れていました。こうした中、第1回目から参画していた農業者が、平成2年に「朝顔・鉢物研究会」を結成し、江戸川区内の農園に研修に出かけ、本場の技術を学びながら、試行錯誤の中で朝顔栽培に乗り出しました。第2回目では試行的に、国立産朝顔が展示されましたが、半数以上は江戸川区産に頼っての開催となりました。第3回目には生産者が加わり計5軒の地元農業者によって、販売される全てが国立産の朝顔となりました。

　現在は、朝顔栽培農業者が共同して「朝顔の里」をつくり、国立産朝顔を提供し続けています。

〇国立産朝顔の現況

　朝顔の里で栽培される朝顔は「日本朝顔」で、あんどん仕立てとなっています。日本朝顔の最大の特徴は、大輪であることです。花は午前中に鑑賞を楽しめますが、午後には萎んでしまいます。都度、花芽を摘むことで秋口までの長期間、鑑賞することができます。

問い合わせ	国立市　生活環境部　まちの振興課　商工観光係 TEL042-576-2111 内線(347)